

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きつずTREE 児童発達		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 16日		～ 令和6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 11日		～ 令和6年 12月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者(児童)に対して丁寧な関わりができる。	本児の発達、特性に基づいて、その日その時の体調、精神状態に考慮し対応している。	心理士や保育士など多職種の職員が関わることで利用者の観察をしたり、今後の展望を話し合いながら必要な課題を発見できる。
2	受け入れや送り出し時に保護者と面談以外でもその日の様子を詳しく伝えている。	利用日の様子から家庭や園で何かしんどい事があったか(楽しい事があったか)など話を聞き、利用児の頑張りを保護者に伝えるようにしている。	保護者の相談や心配事を聞いて、そのしんどさを受け止めようとしている。又本児の気持ちを推測し、保護者に伝えるようにしている。
3	職員同士の密な連携が取れるところ。	職員がお互いの動きを見ながら、部屋での死角がないようにしたり、関わりが少ない利用児がいないようにしている。	動きの少ない利用児に体を使った遊びを促したり、手先の不器用な利用児には手先を使うような遊びや活動を取り入れている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	低年齢児に(2歳)職員の助けがることが多い。	利用児の発達年齢が2歳以下が多い。	利用児の年齢を引き上げる。又は入所時期をずらす。利用児の成長を見守りながら自分でできるという自信を育むことができる関わりや言葉かけが、より必要と考える。
2	友達との関わりより、職員と関わることに楽しみを感じる利用児が多いので友達とは平行遊びになり、1対1対応の利用児が多くなると対応職員の数がいるが職員をこれ以上増やせない。	発達年齢が一人遊び(又は平行遊び)の利用児が多い為、二項関係から三項関係、対人との遊びに導くようにグループでの関わりを強化していく。	平行遊びをしながら、職員が遊びの中に入ることによって友達がどんなことをして遊んでいるのか興味を持てるような言葉かけをしていく。
3	両親共働き世帯が増えているため、送迎を希望されるご家庭は多いが送迎できる職員が不足している。一度に送迎できる人数が限られている。	一度に送迎できる人数が限られている。	ハローワークに求人を出す。